

小川文昭

真宗大谷派名古屋教区
教区教化委員会
研究部門幹事

戦前から戦後にかけて、ハンセン病患者が受けた終生にわたる強制隔離。故郷を奪われ、家族を奪われ、名前さえも奪われる非人道的な国策に反対を唱えた小笠原登博士。「いのちの尊厳」を核として治療をおこなう医師であり念仏者でもあった博士。患者の人生をどこまでも守ろうとしたその生涯を知る貴重な一冊です。

和泉眞藏

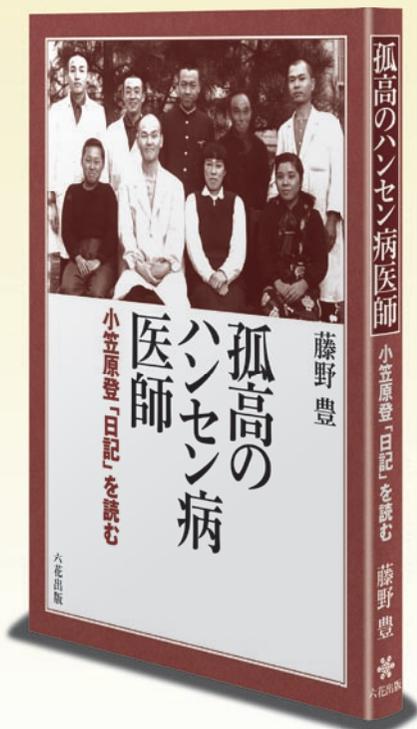
アイルランガ大学熱帯病研究所
客員教授・ハンセン病医学専攻

本書は日本に絶対隔離と無らい県運動の嵐が吹き荒れた時代に、京大でハンセン病の療養所外医療に活躍した小笠原登医師の姿を、新しく発掘された「日記」によって描き出した画期的な本である。
小笠原は単なる反隔離の旗手ではなく冷静な批判精神を持っていた。本書を思慮深く読むことで、日本の近代ハンセン病対策への理解がよりいっそう深まるであろう。小笠原のハンセン病医学の基本理念を受け継ぐ専門医として本書を強く推薦する。

孤高の ハンセン病 医師

小笠原登「日記」を読む

藤野豊 著



2016年
3月新刊!

A5判/並製/224ページ/定価1,800円+税
ISBN978-4-905421-95-5

「癩病は治癒する」
「癩は強烈なる伝染病には非ず」

らい予防法廃止から二〇年、ハンセン病国家賠償訴訟熊本判決から一五年、ハンセン病患者をこごとく療養所に収容しようとした癩予防法のもとで、自らの医学的知見にしたがい、絶対隔離の必要なし、と療養所外での自宅治療・通院治療を敢行した医師・小笠原登の「もうひとつのハンセン病治療」。その思想と実践を、遺された日記・諸資料を駆使して検証、実体に迫る。

序章

小笠原登「日記」の史的意義

- 第一節——ハンセン病絶対隔離政策の歴史
- 第二節——小笠原登に関する研究史
- 第三節——小笠原登「日記」の概要とその史的意義

第一章

絶対隔離推進者との論争

- 第一節——小笠原登のハンセン病に対する知見
- 第二節——『中外日報』『朝日新聞(大阪)』紙上の論争
- 第三節——癩学会総会の前後
- 第四節——癩学会総会における論争
- 第五節——癩学会総会後の小笠原登

第二章

戦時下の皮膚科特研

- 第一節——小笠原登の「救癩」観
- 第二節——皮膚科特研における患者処遇
- 第三節——絶対隔離政策と皮膚科特研

第三章

戦局悪化のなかの皮膚科特研

- 第一節——悪化する戦局と皮膚科特研
- 第二節——戦時下の国立療養所と皮膚科特研
- 第三節——無癩県運動と皮膚科特研

第四章

小笠原登を支えたひとびと

- 第一節——浄土真宗のひとびと
- 第二節——浄土宗のひとびと
- 第三節——臨済宗のひとびと
- 第四節——清水寺住職大西良慶
- 第五節——その他の仏教者
- 第六節——キリスト者戸田八重子

第五章

京都帝国大学が生んだ小笠原登と異なるハンセン病研究

- 第一節——鈴江懐のハンセン病研究
- 第二節——優生学と骨格標本
- 第三節——解剖と標本化の倫理

第六章

国立豊橋病院における小笠原登

- 第一節——戦後のハンセン病絶対隔離政策の論理
- 第二節——小笠原登退職後の皮膚科特研
- 第三節——論文「私は癩をかくの如く見る」への愛着
- 第四節——国立豊橋病院皮膚科における小笠原の活動
- 第五節——圓周寺帰郷時の小笠原のハンセン病治療

終章

小笠原登を現代に問う



● 弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。
 お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(32993)8787 電子メール info@rikka-press.jp

冊

発行 六花出版

著 藤野豊

注文カード

帖合・貴店名

注文数

定価 ● 本体一、八〇〇円＋税
 ISBN978-4-905421-95-5

孤高のハンセン病医師
 ——小笠原登「日記」を読む

お名前

お電話番号

注文 年 月 日